

2022(令和4)年度 施政方針



那覇市[🦋]

< 目 次 >

1 市政運営の基本姿勢

- (1) はじめに
- (2) 新型コロナウイルス対応
- (3) 公約の進捗
- (4) 子どもの笑顔が輝くまちづくり
- (5) 節目の年に平和を思う
- (6) 地域経済の回復を目指して
- (7) 伝統文化を次世代に
- (8) 先進技術で新時代を拓く
- (9) 協働によるまちづくりの更なる推進
- (10) 誰一人取り残さない地域社会の実現に向けて

2 予算編成と主要事業の説明

- (1) 予算編成の説明
- (2) 主要事業の説明

3 結びに

未来を担う「人」を育むまちづくり

(はじめに)

はいたい ぐすーよー ちゅーうがなびら。

平成 26 年 11 月から市政を預かり、7 年と 2 か月が経過しました。これまで「平和・こども・未来 あなたとともに」の理念のもと、「なはで暮らし、働き、育てよう！笑顔広がる元気なまち NAHA」の実現に向け、誠心誠意努めてまいりました。

令和 4 年度は、私の 2 期目の総仕上げの年です。強い気持ちと勇気、覚悟を持って、全力で市政運営に取り組む所存であります。

本市は、輝かしい次の 100 年に向け、力強く新たな一歩を踏み出しました。先達が 100 年にわたり築き、守ってきた那覇市の「風格」に、更に厚みと高みを加え、県都としての新たな礎を築いてまいります。

市民の皆様並びに、本市議会の皆様におかれましては、より良い市政の実現に向け、格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、令和 4 年度の市政運営の基本姿勢と予算案、主要事業をあわせてご説明申し上げます。

ゆたさるぐとぅ うにげーさびら。

(新型コロナウイルス対応)

新型コロナが確認されてから 2 年が経ちました。今日に至るまで市民の皆様や事業者の皆様には、様々なご負担やご苦勞をおかけする中で、感染拡大防止にご協力い

ただき、心から感謝申し上げます。

また、市民の命を守るため、日夜最前線で医療や看護にあたられている医療従事者の皆様、エッセンシャルワーカーの皆様のご尽力に敬意を表します。

私は、感染拡大防止に迅速かつ的確に対応するため、那覇市危機管理対策本部の先頭に立ち、「命を守る」「経済をつなぐ」「日常をつくる」という基本方針のもと、感染防止対策、積極的疫学調査、ワクチン接種、経済対策など、様々な施策を講じてまいりました。

スピード感を持って進めてきたワクチン接種の効果もあり、市内の感染状況は、一時落ち着きを見せていたものの、昨年末から非常に感染力の強い新たな変異株への置き換わりにより、想定を超えるスピードで感染が再拡大しております。

医療体制や支援体制を維持するとともに、この第6波を食い止めるため、今月5日から始まりました一般向け3回目のワクチン接種や、3月から予定しています5歳から11歳までのワクチン接種につきましても、県や関係機関としっかりと連携し、万全を期して取り組んでまいります。

みずのえとら
壬寅の今年は、「厳しい冬を越えて芽吹き始める」とされ、新型コロナの逆境に立ち向かい、困難を乗り越え歩き出すことにも重なります。

厳しい状況が続きますが、市民の生命を守り、安心した日常生活を取り戻すため、引き続き、この難局に立ち

向かってまいります。

市民の皆様には、ご自身や大切な方、地域社会を守るためにも、あらためて三密の回避及びマスクの着用、手洗いの徹底など、感染防止対策にご協力をお願い申し上げます。

（公約の進捗）

私が公約として掲げた「10の約束」は、全般的に手掛けており、184の施策のうち約95%、174の施策で着手又は達成となっております。

具体的には、子ども・子育て分野では、市長就任以来、待機児童問題を市政運営の一丁目1番地に位置付けて取り組んだ結果、平成28年度の559人をピークに確実に減少し、令和3年4月1日時点で37人と大幅に減少しております。

また、子育て世代の負担軽減を図るため、今年4月から通院に係るこども医療費助成の対象を、中学校卒業までに拡充し、窓口での支払いが要らない現物給付方式にて実施いたします。

経済・観光分野では、再整備中の第一牧志公設市場については、今年12月の完成を目指しております。併せて、商店街等が取り組むアーケード再整備事業等についても、継続して支援してまいります。

まちづくり分野では、協働によるまちづくりを推進するため、小学校区まちづくり協議会13校区に設置をし

てまいりました。更に2校区の準備会も設置に向けて進めており、引き続き関係者と連携しながら全36校区の設置に向け、支援を継続してまいります。

また、真和志地域の新たなコミュニティ拠点につながる「(仮称)新真和志支所複合施設」の整備については、官民連携の手法による事業者の公募に着手いたします。

その他の分野につきましても、着々と施策を実施しており、引き続き、公約の達成に向けて全力で取り組んでまいります。

(子どもの笑顔が輝くまちづくり)

令和3年4月1日時点の保育所等の待機児童数は37人となり、「待機児童ゼロ」の実現がいよいよ見え始めてまいりました。

待機児童ゼロの実現はゴールではなく、新たなスタートラインであると私は捉えております。

いつでも希望の園に入所できるなど、子育て世帯のニーズに細やかに対応できるよう、「待機児童ゼロのその先へ」取組を進めてまいりたいと考えております。

また、ここ数年で顕在化してきたヤングケアラーの問題など、新たな課題にも真摯に向き合っていかなければなりません。

政府は、令和5年度に子どもや家庭への支援を一元的に担う「こども家庭庁」を創設するとしております。

私は、親の笑顔が子どもの笑顔をつくり、また、子ども

が笑顔であれば、親も幸せになると信じております。これからの社会を創る子どもたちが輝き、生きる力を育み逞しく成長していけるよう、子ども子育て支援に全力を尽くしてまいります。

（節目の年に平和を思う）

沖縄は今年、多くの尊い命が失われた沖縄戦から 77 年を迎えます。戦争体験者が少なくなる中、戦禍の記憶を風化させてはなりません。体験者の心に寄り添い、貴重な証言の記録・保存に取り組んでまいります。

戦後、長い間、本土から切り離された米軍統治下時代を経て、幾多の困難を乗り越えて本土復帰を果たしました。1972 年 5 月 15 日、那覇市民会館で開かれた沖縄復帰記念式典において、復帰運動の先頭に立った屋良朝苗知事は「^{てっせき}鉄石の厚い壁を乗り越え、けわしい山をよじ登り、^{いばら}茨の障害をふみ分けて遂に」と悲願をかみしめ、世界の恒久平和を誓いました。

平和であるからこそ本市の発展があります。復帰 50 周年を迎えるにあたり、私はこの節目の年に平和で豊かな那覇の未来を願い続けた先達の功績を決して忘れてはならない、そうした思いを改めて強くし、これからも平和なまちづくりに努めてまいります。

（地域経済の回復を目指して）

新型コロナにより落ち込んだ地域経済は、那覇とまー

るクーポン事業や那覇^か買エール商品券事業など、本市や県、国の施策により、賑わいが戻りつつ回復の兆しを見せ始めていた矢先、またしてもコロナの打撃を受けています。

再び感染拡大の厳しい状況に置かれた、地域事業者の皆様に対する支援を継続し、押し寄せるコロナの波からしっかりと事業者を守る必要があると考えております。令和3年度に実施した市内中小企業経営実態調査からニーズを的確に捉え、事業者がコロナ禍を乗り越えるための事業活動の継続や事業の回復、新たな事業の展開につなげられるよう、臨機応変に支援を図ってまいります。

アフターコロナを見据え、令和3年度に「コロナ期観光回復戦略」を策定いたしました。リーディング産業として重要性を増す観光産業の回復と、ニューノーマル時代の観光振興に向け取り組んでまいります。

情報通信技術が産業全体の重要なインフラといえる現代において、IoT及びビッグデータ、AIをコアとする第四次産業革命と呼ばれる技術革新の恩恵を、幅広い産業分野が享受することは、コロナ禍からの経済回復を含め、今後の産業政策の大きな柱になるものと考えております。

令和4年度は、その一環として、本市のICT産業の振興の羅針盤となる方針等の策定に取り組んでまいります。

(伝統文化を次世代へつなぐ)

本市の新たな文化芸術発信拠点である「那覇文化芸術劇場なは一と」が昨年 10 月に開館しました。文化芸術を通じて人やまちを元気にし、社会包摂型の劇場として、社会課題等の解決の一助となるよう活用してまいります。

本市にゆかりのある琉球舞踊^{たちかた みやぎゆきこ}立方の宮城幸子さん、志田房子^{しだふさこ}さんが人間国宝に認定されました。琉球王国時代から脈々と受け継がれてきた伝統芸能が高く評価されたことは大変喜ばしく、琉球舞踊の継承・発展に大きく寄与するものであります。

首里城においては、火災から2年が経過し、今年はいよいよ正殿の本体工事の着手が予定されております。艶やかな朱塗り^{しゅぬ}で美しく、誇り高き首里城の一日も早い復興を願うとともに、伝統技術を活用した多くの職人の手によって、古より受け継がれてきた息吹^{いにしえ}が再びもたらされることに、夢や希望が膨らむばかりです。

また、今年は新たな伝統工芸発信拠点、「首里染織館^{しゅりそめおり} SUIKARA」のオープンが予定されております。新たな拠点は、伝統文化の発信と人材育成にも資するものであり、引き続き支援に努めてまいります。

（先進技術で新時代を拓く）

新型コロナウイルスの拡大を契機に、社会全体のデジタル化の機運が高まり、わたしたちの生活を取り巻く環境は過去に類を見ない速さで変化しております。

日本社会においては、これまで大きな課題として提起

されてきた人口減少や、少子高齢化に伴う人手不足への対応などがデジタル化により、持続可能な社会の実現に貢献することへの大きな期待が寄せられています。

本市も時代の潮流を捉え、令和4年度は「(仮称)那覇市デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画」を策定いたします。様々な手続きをオンライン化するなど、庁内業務のあらゆる場面にデジタルをフル活用し、利便性や効率化を図り、行政サービスの質の向上にしっかりとつなげてまいります。

行政サービスのデジタル化については、社会全体の機運が高まっている今、スピード感を持ち、庁内一致団結して取組を進めてまいります。

(協働によるまちづくりの更なる推進)

多くの皆様方との協働により、市民の心豊かなまちづくりに確かな進展を実感していた矢先、新型コロナウイルスの感染拡大により、地域における市民活動や生涯学習活動などが、制限を余儀なくされました。

また、コロナ禍で、社会構造や市民意識の変化による地域でのつながりの希薄化、ライフスタイルや価値観の多様化に伴う課題が見えました。

課題に向き合っていくには、個人や団体・組織の対応に加えて、関係する複数の団体・組織、行政などと共に取り組む必要があります。

団体等と行政、個人と行政、個人と団体等、多様な主体

が、同じ目的のために、互いの特性を活かし、補い合い、影響し合いながら、協力して取り組むことによって、協働によるまちづくりへとつながっていきます。

令和4年度は、様々な課題の解決に市民と協働で取り組むため、そのプロセスを示し、地域の多様な主体による取組を推進する土台として策定した「協働の手引き」も活用し、更なる推進を図ってまいります。

（誰一人取り残さない地域社会の実現に向けて）

昨年のノーベル物理学賞に、アメリカ・プリンストン大学、上席研究員の真鍋^{しゅくろう} 淑郎 博士が選ばれました。二酸化炭素濃度の上昇が、大気や海洋に及ぼす影響を 50 年以上も前から取り組んだ研究、その先見性は、まさに未来のSDGsを見据え、意識を変えることの重要性を示したのではないのでしょうか。

現在、企業や団体等において、「脱炭素」や「食品ロス」、「ジェンダー」などに対する活動等で、SDGsの機運が高まってきていることは、大変素晴らしいことだと感じております。

SDGsを更に推進するためには、企業や団体等のみならず、一人ひとりがSDGsとどう向き合い、「自分のこと」として捉え、真鍋博士のように10年、20年先の未来、子や孫の時代のことと考え、取り組むことが大切であると思います。

そのための本市の役割は、SDGsとすべての施策を関

連付けた、第5次那覇市総合計画に沿ったまちづくりを行うことで、「誰一人取り残さない地域社会の実現」につながるものと考えており、しっかりと取組を進めてまいります。

予算編成と主要事業の説明

(予算編成の説明)

それでは、令和4年度予算案の概要を申し上げます。一般会計予算は1,595億1千5百万円で、対前年度比0.9%、15億2百万円の減となっております。

歳入予算では、市税において、前年度より増額を見込む一方、財政調整機能の役割を担う地方交付税や、臨時財政対策債で減額を見込んでおります。また、沖縄振興一括交付金など県支出金の減額、国庫支出金については沖縄振興特定事業推進費に関する事業の完了等により、大幅な減額となっております。

歳出予算では、引き続き、感染症対策を講じながら、子ども政策分野の充実を始め、扶助費等の社会保障費、市営住宅等の建設事業、市立病院建替、行政デジタル化への推進、学校教育関連事業など、各分野へ幅広く予算を計上しております。

結果として、約30億1千7百万円の収支不足が生じておりますが、財政調整基金から同額を取り崩して対応いたします。

企業会計を除く特別会計予算は、総額約733億6千

9百万円で、対前年度比2%、約14億5千9百万円の増となっております。特別会計予算の増額は、主に国民健康保険事業特別会計、介護保険事業特別会計によるものとなります。引き続き、国保特会に対しては一般会計からの政策的な繰り入れを行います。

（主要事業の説明）

次に令和4年度の主な事業を、第5次那覇市総合計画で掲げた5つのめざすまちの姿に沿って、ご説明いたします。

それではまず、「多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA」に係る事業についてご説明いたします。

（小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり）

コロナ禍においても、地域の声に耳を傾け、寄り添いながら、校区まちづくり協議会に対して、人的・財政的な支援を継続してまいりました。

協働によるまちづくりの更なる推進に向け、市内全36小学校区での協議会設立を目指し、取り組んでまいります。

人材データバンクを活用したボランティアのマッチングを進め、市民の活動をつなげ広げることで、地域の魅力を高め、困りごとを解決できる、暮らしやすいまちをつくりまします。

また、「那覇市自治会長会連合会」及び「那覇市協働によるまちづくり推進協議会」と連携し、協働大使を始めとする地域の自主的な取組を更に活性化するための支援を行います。

（地域の力が重なる安全安心のまちづくり）

保安灯の設置及び維持、防犯カメラの設置を行う団体に対し補助金を交付するとともに、交通安全運動を推進し、安全で快適な生活環境を促進します。

消費者被害の拡大防止のため、啓発活動や消費教育、相談業務等に取り組み、安全安心な消費生活の確保に取り組みます。

外国人が安全安心に暮らせるために、健康保険、年金、福祉、教育等の市民サービスが受けられるよう、引き続き相談等を行ってまいります。

生活に困窮している方に対しては、相談業務等を通して、生活困窮状態から脱却ができるよう、生活や就労などの自立に向けた支援を伴走型で実施します。

自治会等で結成される自主防災組織に対して、活動に必要な資機材等を交付し、住民の防災意識の向上と災害に強い安全安心なまちづくりを推進します。

消防力強化に向け、令和4年度の完成を目指し「(仮称)小禄南出張所」の工事を進めるとともに、消防活動に必要な消防ポンプ車を購入し、消防隊を配置いたします。また、「(仮称)識名出張所」については、建設に向け着手

いたします。

地域社会と多様なつながりがある「那覇市女性防火クラブ」に対しては、家庭や地域の防火・防災力の活動等へ補助を行います。

（交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり）

戦禍の記憶を風化させることなく、沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に継承するため、沖縄戦体験者の証言映像を制作し、市内小中学校への配付等により平和教育に活用いたします。

この秋、開催が予定されている「第7回世界ウチナーンチュ大会」では、本市においても「なーふぁんちゅ交流会」を主催し、国内外から集う那覇市出身の皆様を歓迎いたします。

（人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり）

市内公立中学1年生を対象に、問題解決の能力を高め、自尊心や自己肯定感を持てるよう、思春期における人間関係づくりを考えるプログラムを実施し、いじめやデートDVの防止、将来のDV防止につなげます。

次に、「互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（地域で暮らし地域で支えるまちづくり）

地域で悩みを抱える方が孤立しないよう、自治会等が

訪問活動を行う「地域見守り隊」の結成促進及び充実を図り、誰もが安心して生活できる地域づくりを推進します。また、高齢者等の見守りについては、離れて暮らす家族が安心できるよう、最先端のIT技術活用も視野に、検討を進めてまいります。

災害時において避難行動要支援者の避難を迅速に行えるよう、個別避難計画書の作成の推進や福祉避難所設置数を拡充し、避難支援体制の構築を図ります。

地域の身近な相談役として活動している民生委員児童委員協議会については、圏域の明確化に向けて地区を再編し、より良い地域福祉活動が実践できるよう取り組みます。

障がいのある方が、地域で安心して生活ができるよう、障害福祉サービスによる日常生活の支援を継続するとともに、自立・社会参加の促進を図ってまいります。

「地域共生社会」の実現を目指して、「第5次那覇市地域福祉計画」の策定に着手するとともに、高齢化の進行や介護需要のさらなる増加等の変化に対応するため、「第9次なは高齢者プラン」の策定に取り掛かります。

深刻な子どもの貧困問題については、貧困対策支援員を配置し、適切な支援につなげるとともに、実情に応じた子どもの居場所を設置するなど児童生徒の自立に向け取り組みます。

（すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり）

市民の健康の保持増進を図るため、新たに口腔保健支援センターを設置し、医療・保健・福祉・教育の機関・団体と連携・協力して、乳幼児から高齢者までの、むし歯・歯周病予防、食育の推進等に取り組みます。

幼児のむし歯予防と早期治療につなげるとともに、望ましい生活習慣を促すため、2歳過ぎの保健相談、栄養相談も含めた総合的な歯科健康診査を実施いたします。

早期に発達の気になる乳幼児に気づき、必要な支援につなげられるよう、親子教室や発達相談等を実施します。

妊娠・出産・子育ての相談に応じて、支援を行うとともに、特に育児不安が強い産婦を対象に産後ケア事業を実施し、産後うつや児童虐待の予防に取り組みます。

不妊に悩む方の経済的負担を軽減するため、治療費を支援します。

（身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり）

市立病院の建替えについては、感染症対応を強化すべく設計を見直しました。今後も地域医療を守る要として、より安全安心の医療を提供できるよう、建設を推進してまいります。

高齢者に対し、保健事業と介護予防を一体的に実施するため、地域の健康課題を分析し、低栄養防止に努めるとともに、生活習慣病の重症化や加齢に伴う心身機能の低下(フレイル)などの予防のため、保健指導を行います。

高額療養費支給申請手続きについては、窓口に来庁することなく登録口座へ振込ができるようシステムの改修を行い、利便性の向上と福祉サービスの増進につなげていきます。

新型コロナウイルス感染症により亡くなられた国民健康保険被保険者と、同居して生計を共にするパートナーシップ登録者に対して、本市独自に傷病手当金相当額を支給します。

（衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり）

新型コロナウイルス感染症対策については、これまで最優先課題として位置付け、疫学調査やワクチン接種等について、全庁を挙げて対応してまいりました。引き続き、命と健康を守るため、感染状況に応じた対策を柔軟かつ迅速に取り組んでまいります。

高齢者施設や私立^{わたくしりつ}の学校等で実施する結核定期健診の費用を一部補助し、結核健康診断の定期実施を促進するとともに、結核患者の早期発見や感染拡大防止につなげます。

公営の葬祭場である「いなんせ斎苑」については、施設の老朽化と利用者増に対応するため、設備等の更新を予定しており、引き続き、南部広域市町村圏事務組合と連携して取り組んでまいります。

次に、「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る

誇りあるまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

(子育てが楽しくなるまちづくり)

こども医療費助成制度については、通院費の対象年齢及び現物給付方式による助成を中学校等卒業相当まで拡充いたします。

保育所の入所等に係る手続きをオンラインで申請できるよう整備し、保護者の利便性向上を図ります。

日中、保護者が就労等で家を留守にする小学生の受け入れを行っている、放課後児童クラブの取組を促進するとともに、待機児童の解消を目指し、保護者が安心して就労できる環境づくりを進めてまいります。

経済的な理由で学習塾等に通えない子どもたちには、まなびクーポンの提供を継続して実施し、学びの格差解消に取り組みます。

成績優秀で意欲があるにもかかわらず、経済的な理由で県内大学等への進学が困難な学生に対しては、本市独自の給付型奨学金を拡充し、進学を支援してまいります。

女子児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、市立小中学校の保健室やトイレ等に生理用品を設置します。

(自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり)

教員がゆとりをもって教育に注力できるよう、各小中学校にスクール・サポート・スタッフを配置します。

全中学校区に子ども寄添支援員を配置し、困窮世帯や不登校等で悩みを抱える児童生徒、保護者に寄り添い、学校等と連携して必要な支援を行います。

GIGA スクール構想の実現に向けては、配布されたタブレット端末を使用する児童生徒の活用向上と教員の技能向上が図れるよう ICT 支援員を配置します。

学校施設については、松川小学校、古蔵小学校、若狭小学校及び松島中学校の屋内運動場の改築工事に着手するなど、引き続き、安全安心な教育環境の整備を進めてまいります。

（生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり）

来館せずにもいつでもどこでも電子書籍が利用できる電子図書館サービスを開始し、市民の読書活動を支援します。

地域住民の参画を得て、放課後等に多様な体験・交流活動の機会を提供する放課後子ども教室を引き続き実施してまいります。

（郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり）

崇元寺跡地については、適切な保存・活用を図るとともに、観光振興拠点としての整備を進め、また国史跡指定へ向け取り組みます。

この秋、本土復帰 50 周年を記念して、国・県・市町

村等の共催による国民文化祭・美ら島おきなわ文化祭2022が開催されます。各種取組を通して文化の継承・発展に寄与するものであり、本市としても関連事業を実施してまいります。

那覇文化芸術劇場なは一とにおいては、文化の拠点として、市民が文化芸術に触れ親しみ、交流ができるよう、地域文化を発信するとともに、多様な活動や育成等につなげてまいります。

次に、「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

(ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり)

読売巨人軍が本市で春季キャンプを実施して13年目を迎えます。今年は、市制100周年を記念し、県内初となる読売巨人軍主催の公式戦開催に向け、取り組んでまいります。

「那覇大綱挽まつり」「琉球王朝まつり首里」等の各種イベントについては、賑わいと活気を取り戻すため、コロナの感染状況や感染リスクに十分配慮した手法による、開催を目指してまいります。

滞在時間の延長などによる市内観光消費の促進を図るため、早朝や夜間の時間帯における新たな観光コンテンツの創出に取り組めます。

（様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり）

社会・経済活動に変革をもたらし、産業全体の重要なインフラといえる情報通信分野については、その振興に資する基本的な方針等を策定し、高度IT技術者の育成や、集積等の支援を強化してまいります。

那覇市ぶんかテンプス館と那覇市伝統工芸館については、新たなニーズへの対応と賑わいの創出を図るため、両施設の一体的活用に向けた検討を進めてまいります。

戦後の大嶺地区の土地接收等により、漁業の拠点施設を失った漁業者等を支援するとともに、本市水産業の振興のため那覇空港南側船揚場の整備に引き続き取り組みます。

令和4年度に予定する第2クルーズバースの暫定供用開始に向けては、施設管理者である那覇港管理組合に対して、引き続き支援をしてまいります。

（中心市街地を活かしたまちづくり）

「食」を中心とした沖縄独自の生活文化が体感できる、まち歩き拠点施設として、第一牧志公設市場の再整備を進めてまいります。

アフターコロナを見据え、イベント開催や課題解決等に取り組む商店街に対して、頑張るマチグッー等支援基金を活用し引き続き支援してまいります。

次に、「自然環境と都市機能が調和した住みつづけたい

まち「NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（省エネを実践し、資源が循環するまちづくり）

脱炭素社会の実現には、一人ひとりの行動が重要です。温暖化防止に資する賢い選択^{クール}COOL ^{チョイス}CHOICEの普及啓発の継続と、那覇市環境基本計画及び那覇市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の改定に着手し、ゼロカーボンシティ宣言を目指します。

道路・公園の照明灯については、LED化に取り組み、省エネの推進による環境負荷の低減を図ります。

（自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり）

首里、壺屋の都市景観形成地域においては、歴史的な景観を保全・創出する赤瓦屋根や石積み等による景観づくりを支援します。

市民の健康保護や生活環境の保全のため、大気汚染物質の観測と河川や海域の監視指導を行います。

市民や民間事業者との連携による公園の効果的な整備・再生を推進するために、PPPやPark-PFI制度等を活用した新たな取組により、市街地の緑化の促進及び魅力溢れるまちづくりに取り組みます。とりわけ、漫湖公園及び新都心公園においては、民間活力の導入に向け、調査を進めてまいります。

良好な生活環境の確保と都市美観の維持等を図るため、駅周辺道路において、自転車等の放置防止に取り組みます。

（暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり）

空家等については、必要な措置により、住環境の保全と市民の安全安心の確保に取り組みます。

大規模な盛土造成地については、現地調査を実施し、災害の未然防止に取り組みます。

身近な交通手段である自転車の活用しやすいまちづくりと市民の健康増進等を図るため、「自転車活用推進計画」を策定します。

LRT の導入に向けて、多角的な視点から調査・検討を進めるとともに、道路管理者等の関係機関と協議を進めます。

石嶺、大名、宇栄原、真地の各市営住宅については、計画的に建替工事を進めてまいります。

（災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり）

安全で快適な歩行空間の確保等、道路の機能向上を図るため、久茂地泊線等の改良工事や、安謝天久線等の交通安全対策に取り組みます。

石嶺線や真和志線、一銀線等の都市計画道路については、交通渋滞の緩和や安全で快適な歩行空間の確保等を目指し、体系的な道路網の整備を進めてまいります。

水道水の安定供給と災害に備え、引き続き、水道管路の耐震化を推進するとともに、豊見城配水池とみしろの本体工事を進めてまいります。

公共下水道については、生活環境の改善及び浸水被害の軽減を図るため、汚水未普及地区の解消、首里石嶺地区の雨水調整池の整備を進めるとともに、下水道ストックマネジメント計画に基づく修繕・改築に取り組みます。

(那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり)

那覇軍港の跡地利用については、地主会との合意形成活動を継続して実施し、位置的優位性等を活かした、本市の発展、ひいては沖縄県の発展に資する計画づくりに取り組んでまいります。

最後に、「市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う」に係る事業について、ご説明いたします。

(市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり)

マイナンバーカードについては、窓口等における申請サポートを実施し、普及促進を図ります。

公園等の施設使用に係る支払いについては、新たにクレジットカードによるキャッシュレス決済を導入し、市民サービスの向上を図ります。

子育て・介護関連をはじめとする行政手続のオンライン化を推進します。また、AI や RPA の活用により業務の自動化を進め、生み出した時間を更なる市民サービスの向上につなげます。

本市が目指すデジタル化を市民の皆様と共有するため、「(仮称) 那覇市デジタル・トランスフォーメーション

(DX) 推進計画」を策定します。

(効率的で効果的な行財政運営を行う)

弁護士相談が必要となる業務において、複雑な事案等については、セカンドオピニオンが活用できる体制を構築します。

行政サービス及び事務の品質に関し、令和4年度は新たな品質管理システムを構築して試行実施を行い、令和5年度からの本格実施に向け取り組んでまいります。

小禄支所建設については、令和4年度の完成を目指し引き続き工事を進めてまいります。

「おくやみコーナー」を設置し、県内初となる亡くなられた方に関連するワンストップサービスを導入いたしました。引き続き、ご遺族の不安や負担の軽減に向け取り組んでまいります。

真和志地域の活性化の核となることが期待される（仮称）新真和志支所複合施設については、官民連携による施設整備に向け取組を進めてまいります。

社会情勢の変化に対応するため、市民・市議会の参画のもと、「第5次那覇市総合計画」について中間評価を行ってまいります。

(結びに)

令和4年度の市政運営の基本姿勢と予算案、主要事業の概要などについて説明いたしました。

最後に、もう一言、私の思いを添えたいと思います。

(未来を担う「人」を育むまちづくり)

1972年の復帰の年、私は大学生でした。教師を目指しパスポートを携え県外の大学に進学し、学生生活を過ごすなかで、復帰後の沖縄を支えるためには、人材育成がすべてだと実感したことを昨日のように覚えています。

その後、私は教師として多くの同僚とともに、保護者そして地域社会のトライアングルの様々な響きの中で、互いに手を取り合い、たくさん子ども達の育ちゆく姿を見守り、関わってきました。

その子ども達が成長し、それぞれの道でまちづくりの主演となり、地域社会の一員となっている姿を見ますと、胸に熱くこみ上げてくるものがございます。

市政運営のバトンを受け、基本理念に掲げた「平和・子ども・みらい あなたと ともに」の言葉の中には、「人材こそが共通する財産である」という思いが込められています。

「人がまちを創り、社会を創り、世界を創る」、これから本市が、次の100年へと歩いていく中で、やはりまちづくりの原動力となるのは「人」であります。

これから先に続くまちづくり、人づくりの種まきを行い、芽吹きを育て、輝かしい未来へつなげていくため、令和4年度も私の持つすべてを、全身全霊をかけて、市政運営に臨む決意であります。

市民の皆様並びに議員各位のご理解、ご協力をよろしく
お願い申し上げ、令和4年度施政方針の結びの言葉と
いたします。

いっぺーにふえーでーびる。

令和4年2月8日

那覇市長 城間 幹子





発行2022年2月

那覇市 企画財務部 企画調整課



那覇市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。